



優秀賞

和歌山県 和歌山市遊技場組合  
『盲人用信号機設置キャンペーン』への支援」事業



社会福祉法人 和遊協社会福祉事業協会  
事務局長  
加門仁さん

視覚障害者を交通事故から守るため、音の 出る信号機の設置に協力

チャリティとして定着した「通りゃんせ基金」  
視覚障害者にとって、ラジオは貴重な情報源である。そのラジオの特徴を生かした社会貢献活動として、1975年(昭和50年)のクリスマスにスタートしたのが、「目の不自由な方、障害のある方へ通りゃんせ基金を」をキャッチフレーズとする「ラジオチャリティミュージックソン」である。基本的な活動としては、ラジオ局が音楽をかけながら、12月24日～25日にかけて、24時間募金を呼びかけるというもので、参加するラジオ局(現在、10局)の関連イベントを含め、クリスマスシーズンのチャリティ番組として定着している(キャンペーン期間そのものは、11月1日～1月31日までの3ヵ月間)。

このチャリティで集められた募金は「通りゃんせ基金」として積み立てられ、主に音の出る信号機(音響信号機)の設置や、視覚障害者の情報収集・自立支援・交通安全のための教材などに使われている。2009年までの募金総額は全国で39億円を超えるというから、その広がりや浸透度は相当なものといえるだろう。音の出る信号機は、最終的にはチャリティを行うラジオ局が所在する都道府県の公安委員会に寄贈して設置されるため、その都道府県の募金額が大きければ、それだけその地域に音の出る信号機が増えることになる。ちなみに2009年11月時点で、全国各地に2,797基の音の出る信号機が設置されたという。

和歌山放送ラジオ(WBS)は、1986年(昭和61年)に全国で8番目のラジオ局としてこのチャリティに参加し、現在まで毎年、継続して取り組んでいる。これまでに、このチャリティキャンペーンで集められた募金によって和歌山県内、大阪府南部に音の出る信号機が88基設置されたが、この設置率は全国でも1位とのこと。和歌山の人々のチャリティ精神の高さをうかがえる実績といえるだろう。

音の出る信号機の設置に協力



チャリティミュージックソンのポスター

和歌山放送ラジオのチャリティミュージックソンの活動を伝える冊子

音の出る信号機設置率ナンバーワンに貢献

和歌山県遊技業協同組合では、社会貢献活動に取り組むことにより、業界の社会的地位の向上を図ることを目標に、傘下の支部組合や組合員ホールに対して積極的な社会貢献活動を展開するように働きかけを強化している。それに呼応するように、県内支部組合の中心ともいえる和歌山市遊技場組合では、和歌山放送ラジオのチャリティミュージックソンの趣旨に賛同し、1987年の第2回目から継続的に募金を行っている。これまでに合計461万円(1口20万円、今年は20万円)を募金したが、交通安全という観点から、目の不自由な方や、身体に障害のある方の生命を守るための音の出る信号機設置率ナンバーワンの実績に確実に貢献しているといえるのではないだろうか。

和歌山市遊技場組合では、このチャリティキャンペーンが地域に密着した社会貢献活動であるうえ、関係機関・団体などからも高い評価を得ているため、今後とも支援を継続していく予定である。音の出る信号機の設置状況として、新規の設置数を増やすことはもちろんだが、過去に設置したもので老朽化対策が必要なものもあ

視覚障害者用の信号機。ボタンを押すと青信号の間だけ音が流れる仕組みになっている。



和歌山県内及び大阪府南部の信号機設置市町

設置市町名	設置基数
和歌山市	25基
大阪府南部	2基
橋本市	5基
那智勝浦町	1基
岩出市	3基
串本町	2基
海南市	4基
白浜町	4基
有田市	1基
かつらぎ町	2基
紀の川市	2基
上富田町	4基
御坊市	3基
有田川町	1基
新宮市	8基
広川町	1基
田辺市	10基
湯浅町	1基
大阪府東部	2基
日高町	1基
大阪府東部	5基
みなべ町	1基
計12市10町	88基

るということで、基金の重要性は今後ますます高まっていくことが予想される。信号機の設置によって視覚障害者の方々が交通事故に巻き込まれる危険性が少しでも減少すれば、これにまさることはない。